

学生部セミナー in OKINAWA

文化や歴史、平和について学ぶ



セミナーに参加した14人。具志堅ビーチで感謝の清掃活動



学生が手作りした琉球ガラスのグラス

学生同士の手を交わしながら沖縄の文化や歴史を学ぶ「学生部セミナー in OKINAWA」が9月15、19日に沖縄本島で開催された。1、4年次生14人が参加。平和について学び、沖縄在住の校友との交流を深めた。

3回目となる沖縄での学生部セミナー。到着してすぐに平和祈念公園に向かい、県庁職員の島津典子さん（平6法）の案内で園内や資料館を見学した。

夕食は那覇市内のビーチでバーベキュー。校友会副会長の新本博司さん（昭44法）ら4人の地元校友と、沖縄のことや大学について話に花を咲かせた。

2日目はひめゆり平和祈念資料館を訪問。3、4日目は沖縄本島北部で民泊した。シークワサー農園を営む饒平名知春さん（昭46法）の農園で収穫を体験したほか、琉球ガラス作品を制作、民泊先では三線、貝やサングラを使ったアクセサリー作りなどに取り組んだ。

最終日は本部町の具志堅ビーチで清掃活動を実施。沖縄の自然と人々

の温かさに感謝しながら砂浜の美化活動を行った。

10月4日には報告会が行われ、参加学生が活動を振り返った。「戦跡や戦争関連の展示にはさまざまな思いがこみ上げてきた」という意見に、「防空壕の跡を見て、ここで本当に戦争があったんだと考えさせられた」「ひめゆり平和祈念資料館では当事者が経験したことがリアルに伝わった」などそれぞれが感想を述べ、意見を交わした。

歴史学科で学んでいる河西智希さん（文2）は「言語や食といった文化に、本州とは異なる歴史をたどってきたことが表れていた。現地に行くと、見聞きしなければ分からないことが多く、発見の多いセミナーだった」と振り返った。



饒平名さん（左）の説明を聞き、シークワサーの収穫を体験

専修大学 × 米・ネブラスカ大学リンカーン校 国際交流協定締結40周年

奥村 国際交流 センター長 記念調印式に出席

9月3、9日、奥村経一国際交流センター長が、世国際交流センター長が、国際交流協定校のネブラスカ大学リンカーン校（米国）とオレゴン大学（同）を訪問した。ネブラスカ大学リンカーン校とは1985年10月に、オレゴン大学とは90年3月に国際交流協定を締結。長い間、学生や教員の派遣・受け入れを通じて活発な学術交流を続けており、本学にとって極めて重要なパートナーである。



ネブラスカ大学リンカーン校で40周年記念の調印式に参加する奥村センター長（右）



奥村センター長、オレゴン大のガルバン副学長、ベン・ノートン本学国際交流課職員（左から）

9月3、9日、奥村経一国際交流センター長が、世国際交流センター長が、国際交流協定校のネブラスカ大学リンカーン校（米国）とオレゴン大学（同）を訪問した。ネブラスカ大学リンカーン校とは1985年10月に、オレゴン大学とは90年3月に国際交流協定を締結。長い間、学生や教員の派遣・受け入れを通じて活発な学術交流を続けており、本学にとって極めて重要なパートナーである。

Experiences Officeのネムリンソン部長ら16人の関係者、これまでの両校の歴史と今後の交流について意見交換を行った。また、40周年を記念し、双方はDivision of Global

方々の元留学生からの祝福を集めたメッセージ集を贈呈した。日本語の授業も訪問し、現地の学生に改めて今後の連携強化について確認した。

今回の訪問は、両大学との信頼関係をさらに深め、今後の国際交流の発展に向けた大きな一歩となった。

方々の元留学生からの祝福を集めたメッセージ集を贈呈した。日本語の授業も訪問し、現地の学生に改めて今後の連携強化について確認した。

今回の訪問は、両大学との信頼関係をさらに深め、今後の国際交流の発展に向けた大きな一歩となった。

「トラブルを防止して 安心な学生生活を」

センディ、ピーガルくん&リリポちゃんが呼びかけ

「トラブルになる前に！知っとこキャンペーン」が9月24日、生田キャンパスで行われた。専修大学マスコットのセンディと、神奈川県警のキャラクター・ピーガルくんとリリポちゃんが昼休みの10号館食堂付近で「トラブルを防止して安心な学生生活を」と呼びかけた。

学生部・学生生活課主催、多摩警察署、川崎市消費者行政センターの協力で初めて実施した。センディや県警の担当者らは食堂「スカイテラス」からホワイエ「BizReach CAMPUS LOUNGE」までを練り歩き、「闇バイトは絶対にやらない」「SNS投稿には気をつけよう」「薬物乱用防止」などと注意喚起。ティッシュやチラシも配布され、学生たちはチラシを確認しながらセンディたちと写真撮影していた。



昼休みの食堂で行われた

寮内留学プログラムの受講生



今期は1年次生3人、2年次生4人、4年次生1人の計8人が参加。文学部2年次生は「留学生たちと互いに支え合いながら、積極的に交流を深めて成長したい」と意気込みを語った。

12日まで生田キャンパスの国際交流会館に滞在し、各々のレベルに応じた日本語学習や、日本文化体験などを行う。

開講式では奥村経一国際交流センター長が「日本での生活を楽しく、日本語を上達させてください」と激励した。

開講式に引き続き食堂CABINで行われた歓迎会には日本人学生も英語で学ぶ。

寮内留学プログラムでは、レジデントパートナー（RP）として留学生と約半年間共同生活を送り、異文化理解や国際コミュニケーション力を育む。並行して受講するS i Uインターナショナルプログラムでは、留学生とともに「日本理解プログラム」に参加し、日本文化やビジネスについて学ぶ。

秋期日本語・日本事情プログラム始まる



プログラムに参加する21人